

「安曇野、よいまちつくろう」～ 安曇野を深掘りし、発信します ～

～ 戦後 80 年、地域の戦争の記憶を次世代へつなぐ ～

80年にわたり戦争をしなかった日本が、今後も平和を維持するためにはどうしたらよいのでしょうか。そのためには戦争の記憶を共有してさらに次世代へ繋いでいくことが必要であり、特に地域に根差した「地元の戦争体験」を共有していくことが重要だと考えます。

先日、東京・慶應義塾大学の慶應義塾史展示館を訪れ、学徒出陣し特攻隊員として戦死した安曇野市穂高有明出身の上原良司氏一家を特集した企画展「ある一家の近代と戦争」をみてきました。日本戦没学生の手記をまとめた「きけ わだつみの声」に、特攻出撃の前夜に記した所感が掲載されている三男の良司氏に加え、軍医だった長男の良春氏と二男の龍男氏も戦死しています。手紙を頻繁にやり取りしていた一家の膨大な資料の他、良司氏の書簡、カメラが趣味だった良春氏の写真や、絵が得意だった龍男氏が弟妹のために描いた漫画なども展示され、それぞれの人柄が現われとても身近に感じました。そんな一家の日常が戦争によって壊されたことが胸に迫ってきました。

安曇野市内では、豊科郷土博物館で「日中戦争、太平洋戦争下の安曇野の人々」が10月5日（日）まで開催中です。上原良司氏、同じく特攻隊で亡くなった浅川又之氏、豊科女学校を卒業し女子挺身隊として軍需工場に動員され17歳で体をこわして亡くなった中島良子氏に関する資料が展示されています。

なぜ若い人たちが命を落とさなければならなかったのか。戦争の教訓を生かさなければと思います。

企画展「ある一家の近代と戦争」



ギャラリートークの様子

豊科郷土博物館の企画展



上原良司氏の遺品のトランク



【小林陽子プロフィール】2023年4月～長野県議会議員。穂高在住。
「安曇野を子どもたちが誇れるふるさとに」をテーマに田園風景と人の営みが息づく美しいまちづくりを目指す。2016年に夫の実家のある安曇野市穂高にUターン、子育てをしながら米や野菜づくりに家族で取り組む。1971年栃木県生まれ。津田塾大学国際関係学科卒業。趣味はフルート演奏。

発行 小林陽子後援会

事務所 安曇野市穂高 6073-19 番地(安曇野さんさんハウス内)

TEL/FAX 0263-55-7337 e-mail yoko@sunnydayazumino.com

Web ページ <https://www.sunnydayazumino.com/kobayashiyoko.html>

◆Facebook 「小林ようこを応援しよう！」

◆YouTube 「安曇野さんさんニュース」

◆X 小林ようこ(@sunnydayazumino)



Facebook



YouTube



Web ページ



X

安曇野さんさん通信 第29号

～ 長野県議会議員 小林陽子活動レポート ～

2025(令和7)年8月20日発行

厳しい残暑ながら、朝夕は過ごしやすく秋の気配を感じる頃となりました。皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。

この8月、戦後80年の節目を迎えました。戦争で犠牲になられた方々に哀悼の意を捧げます。戦争経験者やご遺族が減少する中で、戦争の悲惨さや平和の大切さをどのように共有し、次の世代に継承していくかが大きな課題です。世界ではいまなお争いが絶えません。先の戦争の反省と教訓を活かし、何ができるのか考えていきたいと思えます。



県議会での動き～ 現地調査の中から報告します ～

議員活動、会派「改革信州」や常任委員会において、現地調査を行っています。実際に現地に足を運び、現状確認・情報収集することを通して、課題を把握、解決策を協議し、政策提言しています。令和7年度前半に行った現地調査から安曇野市に関するものを紹介します。

【有明高原寮 ～地域に見守られる少年院～】(5月19日 会派改革信州視察)
安曇野市穂高有明にある「有明高原寮」は、戦後のNHKラジオドラマ「鐘のなる丘」のモデルとしても知られ、非行傾向の比較的軽い14歳以上の少年を対象とした男子少年院です。開放的な処遇と、法務教官との人間関係構築や家族カウンセリングなど信頼関係を築く取組により、更生と社会復帰を支援しています。農作業や登山体験、合唱やお祭りを通じた地元住民との交流等のプログラムにより、「人や社会を信じる力」を育むことが、未来を切り拓く鍵であることを学びました。

【穂高古墳群と埋蔵文化財の保存】

(8月8日 県民文化健康福祉委員会視察)
西山山麓には「穂高古墳群」として市史跡指定されている80基の古墳があり、2009年から毎年夏に國學院大学の青木敬教授が指導し、大学生が考古学実習として、国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区内の古墳を発掘調査しています。古墳は7～8世紀頃ものといわれ、当時は「牧」の地名のとおり馬の産地で、武具・馬具・食器などが副葬された小規模な円墳は、家族単位で繰り返し埋葬に使われたと考えられています。

また安曇野市文化財資料センターで、埋蔵文化財の研究と保存を視察しました。明科の「ほうろく屋敷遺跡」「明科廃寺跡」等から発掘された遺物は4,512箱を数え、整理作業が続いています。7世紀創建とされる明科廃寺は信州の最古寺院のひとつとされますが、発掘が未完了で全貌が解明されていません。長期にわたる事業と、増え続ける遺物保存など、課題を目の当たりにしました。



古墳の発掘現場



明科廃寺の瓦等の遺物